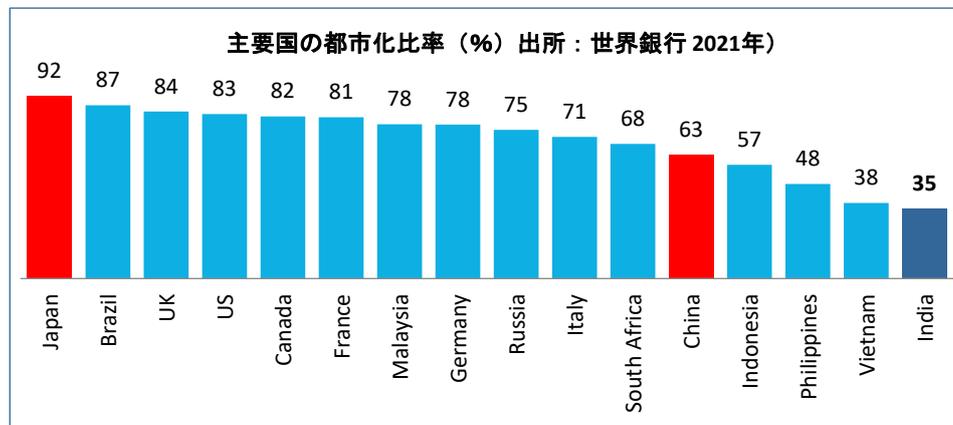

勝池レポート アジア資産運用アドバイザー 勝池和夫
「インドの都市化の衝撃」

以下は、世界主要国の都市化比率（都市人口の割合）を比較したグラフです。インドは右端の 35% です。この比率は、G7 先進国に比べても、BRICS 各国に比べても、そして東南アジアの主要国に比べても、極めて低いことが分かります。

その原因には、製造業が未発達なため、カースト制度があるためなど、いろいろ挙げられますが、結果的にインド経済には他国が殆ど使い切ってしまった成長余力が十分残されています。

国連は、インドの都市化比率が 2050 年までに 50% に達し、その過程でインドの都市部には 4 億人の人口が流入するだろうと予測しています。そしてその 4 億人は、今後 27 年間に世界で起こる最大の都市部への人口移動だそうです。

もしその通りならば、インド経済への影響は膨大です。不動産市場、個人消費、インフラ投資など、国の経済基盤を支える、殆ど全てが大きな刺激を受けるはずです。



インドの 35% という現在の都市化比率は、日本経済が 1950~1960 年代に、中国経済が 1980~2000 年代に成し遂げた年平均 10% という、「奇跡」の経済成長時代の初期段階と同じです。

1980 年にはインドの都市化比率は中国を上回っていました。しかし、現在は中国の比率が 30% 近くインドを超えています。そして、その都市化比率の差が、まさに過去 30~40 年、インドが経済発展で中国に大きく出遅れた最大の要因です。

ただ、いよいよこれからはインドの出番です。インフラ整備の進展と製造業の

活性化でインドの都市化が世界を追いかける時、インドの経済は今までどの国も経験しなかったような強烈なエネルギーを発すると思われま

~~~~~ お知らせ ~~~~~

皆様、メールマガジンをご愛読いただきありがとうございます。早いもので、インドを色々な角度から書いてきてもう 4 年が経ちました。皆様の資産運用にお役に立っているでしょうか。

実はお知らせです。国際エコノミストの今井激先生の著書『2024 年世界マネーの大転換』（フォレスト出版）が 8 月 23 日に発売されました。その第 4 章「どの角度から捉えてもやってくるインドの時代」は、先生と私との対談です。

内容は、なぜインドなのかを読みやすく纏めたものです。できましたらお手にとってご覧ください。他の専門家のご意見も新 NISA が始まる 2024 年の準備には大変参考になります。

それでは皆様、今後ともよろしく願いいたします。

